外 国 語	１年Ａ組（男子 10 人女子６人）		授業者：　仁谷　友紀
単元名	日本文化を伝えよう 【本時】Lesson６　“Discover Japan”　Round3		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	外国語が相手に伝わったらうれしいのはなぜだろう。
単元を貫く問い	初めて来日する外国人に、日本と外国の文化（食・芸術・学校）の違いを踏まえ、日本の文化を紹介するにはどう表現したら良いだろう。
個別の問い	○外国人に伝えたい日本の文化はどのように表現したら良いだろう。 ○日本の文化と外国の文化の共通点と相違点は英語でどのように表現したら良いのだろう。 ○教科書のどの表現を活用することができるだろうか。

２　単元について

【単元観】
本校では５ラウンドシステムによる指導を取り入れており、教科書の Lesson を年間２単元で構成しており、本単元では Lesson４～８を扱う。
　それぞれの Lesson の内容は、家族の紹介や、故郷についての説明、学校生活の様子、旅行の思い出等が取り上げられており、外国の生活や学校生活について読み取り、日本の文化との共通点や相違点について考えることができる内容である。
　また言語材料としては、３人称単数現在形、過去形、未来を表す表現、現在進行形、過去進行形が扱われており「相手のことを紹介」したり、「自分が体験したこと」を伝えたり、「外国人が日本ですること」を紹介する活動に適した単元である。
　従って、本単元では学習指導要領の１目標（４）話すこと[発表]イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」指導と位置付ける。

【生徒観】
　本学級の生徒に対して、令和４年８月に実施した質問紙調査の結果は次の通りである。

質問内容	肯定的評価
1.英語は好きです。	77.0%
2.英語の授業以外で英語を使ってみたいと思います。	84.6%
3.外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいです。	61.6%
4.英語の授業はよくわかります。	78.6%
5.スピーチやプレゼンなど、まとまった内容を発表している。	30.8%

　質問１～４の結果から、本学級の生徒は意欲的に取り組む生徒が多いと言える。８の質問では肯定的評価が 30.8%と「話すこと【発表】」に関して苦手意識のある生徒が多い。これまで学習してきた「話すこと【発表】」については「自分の好きなものの紹介」を行った。しかし、言いたいことを英語で表現することが難しく、十分に伝えることができなかった。その要因として、教科書のインプットが不十分であったことである。教科書の本文のインプットを十分に行った箇所は、教科書の表現を活用することができた。しかし、十分にインプットできなかった箇所では、活用することができなかった。

【指導観】
　準備して行うスピーチやプレゼン等を行うことに苦手意識を持っている。そこで、本単元を通して、生徒が自身を持って発表できる力を育成するために次の点に重点を置いて指導する。
① 単元を通したテーマとなる問を設定し、学習に対して見通しを持たせる。「初めて来日する外国人に、日本と外国の文化（食・芸術・学校）の違いを踏まえ、日本の文化を紹介する」という場面設定をし、その対象を ALT の姉にすることで、生徒の話したい意欲につな

外国語科で育成したい「表現力」
英語を用いた活動を通して，コミュニケーションを図っている。

げる。
② 人の情報を聞き取る表現を身に付けさせる。相手の好きなものやニーズに合わせた日本文化の紹介ができるようにするために、相手のニーズを聞き取る表現を身に着けさせる。帯活動を活用して取り組む。また、一方的に話すのではなく、話す内容の相違点に着目し、◇しながら話せるように工夫する。
③ 相手のことを知るための問い方の表現を身に付けさせる。ALT の姉からのメッセージを聞く前に、その人をクイズ形式で当てさせる会話を ALT とやり取りで行う。その際に活用できる表現を身に着けさせる。
④ 文化を紹介するときに必要な動詞や形容詞を定着させる。教科書の表現を活用しながら表現できるようにするために、教科書の内容を、５ラウンドシステムを活用しインプットさせる。

3　単元の目標

日本の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①３人称単数現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来を表す表現の特徴やきまりを理解している。 ②３人称単数現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来を表す表現の文構造を、理解をもとに、日本の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	③日常的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。 ④日本の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	⑤日常的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。 ⑥日本文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話そうとしている。

5　単元計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
10	Round1：何度も英文を聞き、音声のみのインプットから物語の概要をつかむ。(Lesson４～８)		○	○	③ ⑤	後日リスニングテスト
	帯：フォニックス、動詞の定着を行う。人あてクイズを通して、人物の情報を聞き取る活動を行う。					
10	Round２：英語の音と文字の一致をさせる。(Lesson４～８)					
	帯：動詞・形容詞のインプットを行う。相手のニーズに応じたおすすめをするために、相手のことをリサーチす					

	る。					
10	Round３：発音・イントネーション等を踏まえた音読に取り組み、インプットの質を高める。(Lesson４～８)					
	帯：動詞・形容詞のインプットを行う。スモールトークを行う。(日本の文化の情報収集＋練習)					
10	Round４：自分の表現に結び付けられるよう、フレーズや言語形式に着目させる。(Lesson４～８)	○			①	後日定期テスト
	帯：言語材料の練習を行う。スモールトークを行う。(南アフリカの文化と日本文化の共通点と相違点を伝え合う。)					
10	Round５：教科書のストーリーを自分の言葉で伝える。(Lesson４～８)					
	帯：スモールトークを行う。(課題解決に向けた練習を行う。)					
	パフォーマンステスト	○	○	○	② ④ ⑥	発表

6　本時の授業計画

【本時の目標】つまらずに音読をすることができる。

【準備物・使用するソフト】デジタル教科書、ピクチャーカード

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
帯 15分	①　ウォームアップ ○挨拶 ○課題の確認 ○単語(動詞・形容詞) ○スモールトークを行う。(日本の文化の情報収集のための練習)	学力動詞シートや形容詞シートを活用し、日本文化を紹介するときに活用できる表現をインプットする。 学力動詞シートや形容詞シートを、繰り返し触れる、使うことでインプットを深化させる。
思考↕表現	本時のめあて　音のつながりを意識して，つまらずに音読をすることができる。	
	② 内容の振り返り 教師と生徒の口頭でのQAで話の内容を振り返る。 主なQA ・What's this? ・Have you ever eaten/seen this? ・Where can we see/eat this? ・Did you enjoy fireworks this year?	学力 Round5を見据え、自分の言葉で表現できることを教師側が意識をしながら、教科書の本文の内容を振り返るQAを行う。 支援生徒に英語での答えを強要せず、日

		本語でもよいことを前提とする。最終的にリテリングや、パフォーマンステストのときに英語で言えることができればよいので、それまではインプットを目的とするため、生徒の日本語での返答に対し、教師側が英語で言い換える。
	③　教科書を見ながら、1度流れを聞く。 指で教科書をなぞらせる。 ④　1度個人読みを行う。 ⑤ 単語と単語のつながりの箇所を確認する ⑥ ペアで読みの確認を行う。 ⑦　個人練習を行う。 ⑧ オーバーラッピングをする。	支援文字と音を一致させるため、指で教科書をなぞらせる。 学習タブレットを活用し、繰り返し聞きながら正しい発音を意識させる。 支援単語と単語のつながりを意識させる。 支援ペアで確認をさせる。 学習タブレットを活用し、個に応じたスピードで練習を行う。 学習はじめより読めたことを実感させる。
振り返り ５分	【生徒の姿の例】 外国の人とのコミュニケーションをすることに向けて，発音やイントネーションを意識して音読をすることができる。 ⑨　本時の振り返り	

7　成果と課題

【成果】帯：人あてクイズや人物の情報を聞き取る活動を通して，基本的な質問のパターンを理解することができた。また、動詞・形容詞シートの単語を，単元を貫く問いに合わせたリストにすることで，small talk に活用することができた。
ラウンド：ラウンド１、２で繰り返し聞くことで、概要をつかんだ状態でラウンド３を迎えることができた。本時のラウンド３の音読活動では、繰り返し音読練習をし、１時間の中で「読めた」と実感できた生徒が多くいた。また、アクセントやイントネーションのポイントを生徒自ら気づいて読むことができた。

【課題】帯：教科書の既習内容をもとに英作文を作成することができたが，表現が限られてしまったため，相手に伝わるような内容でなかったので，相手を意識した表現を取り入れたものにしていく。
ラウンド：these，those，they，traditional，popular，thing，favorite など生徒が読みにくいと感じる語の練習量や練習方法の工夫が必要であると感じた。スローラーナーに対する手立てとして、

読み方の工夫だけでなく、読めるようにするための工夫が必要である。

８　生徒の作品等（記述例）

生徒の記述の例

Are you interested in Japanese food? Do you like Matcha? Matcha is a Japanese green tea. I think it is delicious.

Are you interested in Japanese food? Do you eat sushi? I like sushi. You can eat sushi at kurazushi. Kurazushi is a sushi restaurant.

Do you know miyajima? Miyajima is a shrine. You can see deer and eat agemomiji.

生徒の振り返り

・family and I のところをつなげて読めるようになりたい。

・ぼくは今回の学習で最初はすらすらと読めなかったけど，単語の一つ一つの読み方を読んで，文の繋がりを意識したら読めるようになりました。

・今回の英文は，１文目が短い単語が並んでいて早く読むことが難しかったです。なので，短い単語は繋げてから早く読めるようにしたいです。また，”are”はだいたい弱く読むほうがいいと思いました。

・今回の学習は前回と比べてとても難しかったです。ですが，速さや１つ１つの発音をつなげてみたら，だいぶ読めるようになりました。次は，音のつながり，詰まらずに読みたいです。

理　科	２年Ａ組（男子３人女子４人）		授業者：　山本　尚輝
単元名	地球領域　大気の動きと日本の四季		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	天気の変化は、私たちの生活どのような関係にあるのか？
単元を貫く問い	日本の四季の天気の変化は、どのようなしくみで起こるのだろうか？
個別の問い	・陸と海の間で大気はどのように動いているだろう？ ・季節風とはどのような仕組みで発生するだろう？ ・日本の四季にはどんな特徴があるだろう？ ・天気予報はどのようにして行われているのだろう？ ・天気の変化がもたらす恵み、災害にはどんなものがあるだろう？

２　単元について

【単元観】

本単元は、平成 29 年 7 月告示の中学校学習指導要領理科第２分野の内容

（４）気象とその変化　ア　気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。　イ　気象とその変化について、見通しを持って解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること　を受けて設置した。

本単元では、天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解させ、思考力、判断力、表現力等を育成することをねらいとしている。

【生徒観】

本学級の生徒は、理科の学習に対して前向きで、自分の意見や疑問に思ったことを素直に表現することができる。その一方で、物事を、筋道を立てて論理的に説明する活動が苦手である。また、地球領域の学習を苦手としており、NRT の結果から、「火山活動と火成岩」の正答率が 54.3%（全国平均 58.0%）、「地層」の正答率が 28.4%（全国平均 40.0%）であった。学校評価アンケートでは、「私は、授業内容を日常生活に生かそうと考えている。」の項目で、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた生徒が 3 名いた。

修学旅行先が沖縄県で、総合的な学習の「沖縄調べ」で沖縄に対しての関心が強い。

【指導観】

本時の指導に当たっては、科学的に探究する活動の一環として、パフォーマンス課題を設定する。パフォーマンス課題を設定し、自分以外の立場で問題を思考し、表現していく中で、筋道を立てて論理的に説明する活動を行いたい。本時は、天気図を読み取ることを通して、沖縄県と広島県の気象や気候の違いに注目させる。そして、課題に対して気象や気候の違いを活かした工夫を提案させたい。

また、筋道を立てて論理的に思考し、表現する活動を行うための手立てとして、パワーポイントをワークシートとして使用し、思考と表現の型を示したい。

本単元で育成したい「表現力」

観察、実験の結果を「表」や「グラフ」、「モデル」にまとめ、考えられることを説明することができる。

3　単元の目標

（1）　気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。[知識及び技能]

（2）　気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）　気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとすること。[学びに向かう力、人間性等]

4　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考力・判断力・表現力	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①日本の気象について、見通しを持って解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析し、日本の気象についての規則性や関係性を見いだして、表現している。	①日本の気象に関する事物･現象に進んで関わり､見通しを持ったり振り返ったりするなど､科学的に探究しようとしている。

5　単元計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	【課題の把握①】 ①　季節による気温や天気の変化があることを確認する。 ②　陸風、海風の仕組みについて学習する。	○			ア①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
2	【課題の把握②】 ①　季節風の仕組みについて学習する。 ②　日本の四季の気象を学習する。	○			ア①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
3	【課題の探究①】天気予報を行おう！ ①　どうすれば、根拠を持って明日の天気を予想できるか仮説、計画を立てる。 ②　実際に気象データ、天気図をもとに明日の天気を予想する。		○		イ①	・ワークシート ・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
4	【課題の探究②】 YAMAMOTO くらす２号店を沖縄につくろう！ ①　パフォーマンス課題の提示。科学的な視点で、沖縄に「YAMAMOTO くらす２号店」を出すとしたら、どんな工夫をするか、仮説を立てる。 ②　５年分の３月、６月、９月、12 月の天気図をもとに、沖縄と広島の気象・気候の違いを見いだし、工夫点を考え、次回の提案発表会の資料を作成する。（本時） ③　提案の発表会を行う。		○	○	イ① ウ①	・ワークシート ・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
5	①　天気がもたらす恵みと災害について学習する。	○			ア①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート

6　本時の授業計画

【本時の目標】発表会の準備を通じ、天気図を読み取ることで、日本の気象について、規則性や関係性を見いだし、表現することができる。イ①

【準備物・使用するソフト】

タブレット・ワークシート（パワーポイント）・Google クラスルーム・Google ドライブ

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 15 分	1　Google クラスルームにて本時のめあての確認。 2　前時に立てた仮説、「①読み取れるデータ」、「②そこから考えられること」を確認し、「③発表会で提案する内容」を考える。　思考	◇classroom のストリームに本時のめあてを入力しておく。 【生徒の仮説の例】 ・沖縄は暑そうなので、風通しのよいお店がいいのではないか。 ・雨が多いので、雨宿りできるスペースを大きくする。

本時のめあて

☆天気図から読み取れることをもとに、提案発表会の準備（スライド作成・発表の練習）ができる！

思考↕表現 30 分	主な表現活動 3　天気図や資料をもとに、「③発表会で提案する内容」を交流し、まとめる。発表用スライドを共同編集で作成する。　対話	・グループでの話し合いでまとめる。 ・スライドに提案内容を箇条書きで書かせる。 ・天気図や資料を根拠にして発表させる。

生徒の姿	
B評価	・天気図から、台風が接近する回数が多いことがわかる。よって、強風に強い建物がよい。 ・１２月でも平均気温が高いことがわかるので、鍋などの冬の定番メニューは必要ない。

振り返り 5 分	4　発表練習を行う。　表現 5　本時の振り返りを行い、次回の見通しを持つ。 ・発表会ではどのような内容をどのように提案するか	・パフォーマンス課題を踏まえて、天気図や資料を根拠にわかりやすい発表をさせる。 ◇本時の学習をふり返り、振り返りシートに記入させる。

7　成果と課題

【成果】

・タブレットを活用しながら、他者と意見の交流を行えたこと

→対面と ICT 活用の両立ができた

【課題】

・資料の精選

　→気象要素や天気図の資料が多すぎた

　→天気図よりも気象要素の方に注目させすぎた

・探究的な学習となる単元の構成

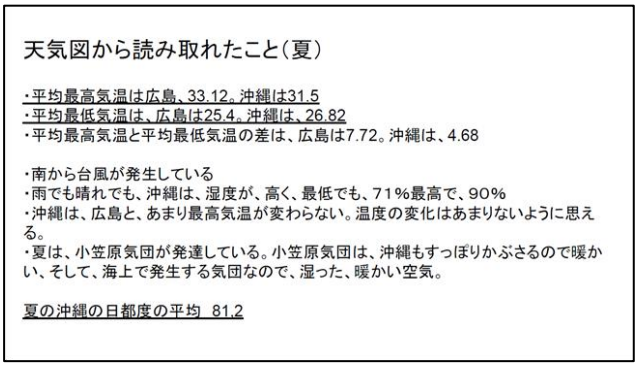
　→総合的な学習や社会科とのカリキュラムマネジメント

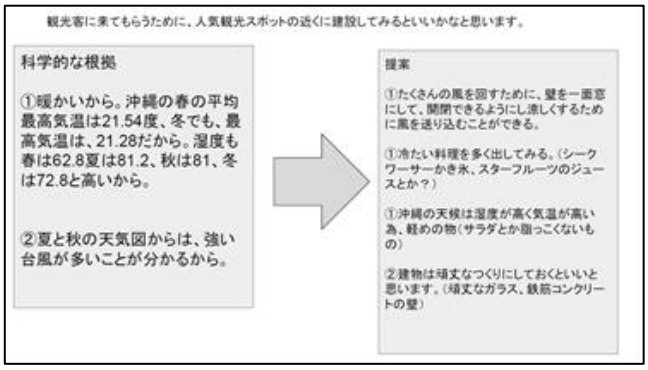
・理科の知識、技能を使った提案となるような手立てが必要であった

8　生徒の作品等（記述例）

生徒作成の発表会のスライドより

〇1 班スライド

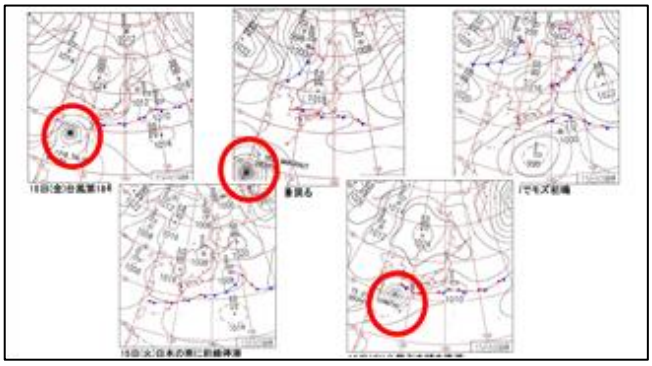




成果：天気図から読み取れたことを季節ごとにまとめて、「科学的な根拠」の根拠を整理できた。

課題：天気図よりも、気象要素から読み取れたことを「科学的な根拠」で使っている。

〇２班スライド



成果：天気図を示しながら，根拠として発表できた。

課題：総合的な学習、社会とのカリキュラムマネジメントでより深く探究させたい。

国　語	３年Ａ組（男子１０人女子９人）		授業者：　西浦　瑞姫
単元名	「初恋」島崎藤村　～私の好きな恋の歌～		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	文学作品を読むことの価値・意義は何だろう？
単元を貫く問い	人々はどんな「恋」をして生き、それをどのように描いているのか？
個別の問い	⓪短歌の学習（巻末「恋歌をよむ」） ・「恋」ってどんなもの？ ・中世までの人々は、どんな「恋」をしていたのか？ ・中世までの人々は、「恋」をどのように描いているか？（表現の工夫） ①「初恋」概要理解 ・「初恋」ってどんなもの？ ・この「初恋」は実ったか？ ②「初恋」と他作品との比較分析 ・「恋」をどう描いているか？（表現の工夫） ・自分の一番好きな詩の良さはどこか？

２　単元について

【単元観】

本単元は、平成２９年告示「中学校学習指導要領国語編」第３学年「Ｃ読むこと」エ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」を受けて設定した。

古来より世界中で人々は「恋」に一喜一憂し、その思いを様々な媒体で表現してきた。日本でも、人々が恋心を相聞歌等として表現してきたことは言うまでもない。今回取り上げる島崎藤村「初恋」でも、明治期の若い男女の新鮮な恋の様子が七五調のリズムでうたわれている。こうした作品は、現代の生徒にとっては、古めかしさや言葉遣いの難しさを感じさせる反面、時代を経ても共感しうる恋の有様を感じさせるものである。

「初恋」の学習を通して、人々が「恋」をどのように描いているのか、その表現の工夫について深く読み取り、人間の生き方についての自分の考えを持たせたい。

【生徒観】

本学級の生徒は、男子１０名、女子９名の１９人学級である。令和４年度全国学力・学習状況調査では、「Ｃ　読むこと」の通過率が67.5%と、全国平均68.3%をわずかに下回っている。

生徒アンケートによると、「読書が好きだ」に対する肯定的回答は63.2%で、１か月に１冊も本を読まない生徒が３名いることがわかっている。また、「文章を読み、自分の考えが広がったり深まったりすることがある」への肯定的回答が57.9%、「私は人間、社会、自然などの問題について、自分の意見をもっていると思う。」への肯定的回答は42.1%であり、現段階では約半数の生徒が文章を読み自分の考えを深めた経験がなく、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっていないことがわかった。

【指導観】

自分の考えを持ち、自信をもって積極的に伝えることができる生徒を育成するために、次のような点に留意して指導を行う。

本単元で育成したい「表現力」
根拠をもとに作品に対する自分の考えを伝え合い，深め合うことができる。

①他の詩との比較分析

「初恋」だけでなく、複数の他作品を用いて比較分析を行うことで、作品における表現の工夫や特徴、「恋」の不易流行を相対的に理解させる。また、詩中の言葉にこだわって分析を行い、自分の意見の根拠とさせることで、自分の意見に自信をもたせたい。

②ジグソー学習

班の中で担当を分担し、課題に取り組む中で、担当の同じ生徒同士で相談をしやすい環境を作ることで、自分の意見に自信を持たせる。また、自分の担当について責任をもって班に報告をさせることで、全員が自分の分析結果を表現する場を確保する。

3　単元の目標

（１）時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。〔知識及び技能〕（３）ウ

（２）文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃウ

（３）文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃエ

（４）言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。（３）ウ	①「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。Ｃウ ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間について、自分の意見をもっている。Ｃエ	①積極的に内容を解釈し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。

5　単元計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	短歌の学習（巻末「恋歌をよむ」） ①「恋」について自分の考えを記述し、交流する。 ②本文を通読する。 ③取り上げられた短歌の表現の工夫について整理する。	○		○	主体的① 知識・技能①	記述 プリント 発表
2	④中世までの「恋」「結婚」に関する時代背景を理解する。 ⑤自分で選んだ「恋」の短歌について、表現の工夫を分析する。 ⑥分析を交流する。 ⑦中世までの「恋」についての自分の考えを記述する。		○	○	思考・判断・表現① 主体的①	ワークシート 記述
3	「初恋」概要理解 ①「初恋」についての自分の考えを交流する。 ②本文を通読する。			○	主体的①	記述

	③登場人物を確認する。 ④詩のなかに描かれた恋が成就したかについて読み取る。	○			知識・技能①	ワークシート 記述
4	「初恋」と他作品との比較分析 ①観点を提示し、「初恋」の表現の工夫について分析する。（個人思考） ②分析結果を交流する。 （グループ・全体思考） ③「初恋」の表現の工夫についてまとめる。 ④作品を班ごとに分担し、観点ごとに「初恋」と比較分析する。 （個人思考）	○	○		知識・技能① 思考・判断・表現①	ワークシート 記述
5 （本時）	⑤同じ作品を担当する生徒同士で分析する。（グループ思考１） ⑥担当する作品の分析結果を自分の班で報告する。 （グループ思考２・全体思考） ⑦担当する作品の表現の工夫についてまとめる。		○	○	主体的① 思考・判断・表現①	行動観察 ワークシート
6	⑧短歌・「初恋」・他作品の分析結果をもとに、自分の一番好きなものを選び、自分の考えを記述する。 ⑨記述内容を交流する。 ⑩学習全体の振り返り・まとめ		○	○	思考・判断・表現② 主体的①	記述 ワークシート

6　本時の授業計画

【本時の目標】

・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ

【準備物・使用するソフト】教科書・作品集・ノート・タブレット（Google classroom 使用）

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し ５分	①前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。	
	本時のめあて　担当作品について交流し，作品の良さをまとめることができる。	
	②同じ作品を担当する生徒同士で分析を行う。 （グループ思考１）	◇ワークシートに分析をまとめさせる。 学力 文中の記述を根拠に分析させる。

思考↕表現	主な表現活動 ③担当する作品の分析結果を自分の班で交流する。 （グループ思考２→全体思考） 【生徒の発言例】 私が担当した歌は，あいみょんの「初恋が泣いている」です。この歌は，少女が，初恋をしたけど，失恋してしまったときの「この恋心を忘れたいけど忘れられない」という気持ちが歌われています。曲名「初恋が泣いている」という表現にあるように，「初恋」を擬人化して表現しており，「あの子」と呼ぶことで，「初恋」という感情をより親密なものに感じられます。「あの子が消えるなら」「忘れられるなら」「それもいいかもな」と繰り返すことで，「恋心を忘れたいけど忘れられない」切ない気持ちがより強調されて伝わってきます。	◇「誰の」「どんな気持ちを」「どのように」表現しているのかに注目させる。 ◇自分が作成したワークシートを見せながら交流させる。 ◇発表をうけて疑問や改善策を伝え合わせる。
	④担当する作品の表現の工夫についてまとめる。 （個人思考）	◇コメントをうけて再度自分の担当作品を分析し、「さらに、」に続く形で表現の工夫について記述してワークシートを完成させる。 評価 ワークシートの記述

生徒の姿	
B評価	担当する作品の表現の仕方について評価することができている。 例）この歌は、少女が、初恋をしたけど、失恋してしまったときの「この恋心を忘れたいけど忘れられない」という気持ちが歌われています。曲名「初恋が泣いている」という表現にあるように、「初恋」を擬人化して表現しており、「あの子」と呼ぶことで、「初恋」という感情をより親密なものに感じられます。「あの子が消えるなら」「忘れられるなら」「それもいいかもな」と繰り返すことで、「恋心を忘れたいけど忘れられない」切ない気持ちがより強調されて伝わってきます。【さらに、】擬人化された初恋が「痺れをきかして睨んでる」「牙をむいて言う」と挑発的な態度であったり、その初恋の声を「悪魔が唱えた変な呪文」と表現したりするところから、純朴できれいな恋ではなく、激しくつらい恋であることがより伝わってきます。

振り返り 5分	⑤学習の振り返り ・自己評価をワークシートに記述する。 ・次回の内容を確認する。	

７　成果と課題

【成果】「初恋」の内容読解のみに留まらず、「恋」というテーマで複数の作品を分析するなかで、生徒自身が作品の良さについてしっかりと考え、自分の考えを自分の言葉で説明しようとする姿が見られた。授業展開についても、年代別の様々な作品を、同じ分析方法で繰り返し分析を重ねたことで、分析の視点や交流方法などを生徒が十分に理解し、混乱なく授業を進めることができた。さらに、生徒の ICT 活用スキルが高く、タブレット（Google ドキュメント）を道具として活用する姿が見られた。

【課題】ICT を活用することで、生徒が同じ画面を共有することが容易になったが、その一方で、パソコン画面に注視しすぎることで、対話コミュニケーションで重要な要素である「声の大きさ」や「アイコンタクト」が欠けている場面があった。交流の場面ではパソコンを置くなど、交流方法を検討する必要がある。

８　生徒の作品等（記述例）

普段作文課題に消極的で、定期テストにおいても白紙で解答を提出してしまう生徒も、選択課題では、自分の好きな歌について意欲的に分析を行い、自分なりの解釈を文章にまとめることができた。

生徒記述例からは、授業前には好きな歌の歌詞から読み取れる内容について記述するのみにとどまっていた生徒が、表現の特徴として「擬人化」という表現技法に注目し、歌詞の良さを記述するようになっていることがわかる。

【生徒記述：授業前】（問：自分の好きな曲の一節を引用し、その部分の言語表現の良さについて説明しましょう。）

私は「あの頃、僕らは同じ未来を」という歌の、「あの頃僕らはそれぞれの時間（とき）の中で二人同じ未来を探してた」という歌詞がいいと思いました。まず「あの頃僕らは」のところから、付き合っていたけどもう別れたことがわかり、「二人同じ未来を探していた」のところから、付き合っていたころは一緒に幸せになるという未来を目指していたが今はもう目指すことはなくなったとわかります。この表現は昔は付き合っていたが、今は二人別々になったということが書かれていてなるほどと思いました。

【生徒記述：授業後】

私はあいみょんの「初恋が泣いている」を担当しました。この歌は主人公の私と擬人化された私の恋を歌っている歌です。「初恋が泣いている／思っているよりも近くで／初恋が空を濡らす／もしもこの夜があの子を奪うなら／それもいいかもな」という部分からは、失恋をあきらめたくない気持ちと後悔や悲しみという気持ちが恋を擬人化していることがわかります。そして、私の気持ちを代弁するような大粒の雨がふり、相手に別れを切り出されて終わってしまった初恋の切なさが伝わってきます。

私の好きなフレーズは、「愛してる？／愛してる」というところです。なぜなら、ここは私と擬人化された恋の掛け合いになっていて、お互いに「愛してる？」と確かめあうことで、初恋が失恋に終わったことを認められているように思ったからです。

この歌の良さは、「擬人化」です。この歌では、失恋した女性と、擬人化された恋心が会話する場面が多く読み取れ、後悔や自己嫌悪などの気持ちの移り変わりが表現されているからです。

自立活動	板鍋Ａ組（第３学年男子１人） 自閉症情緒障害特別支援学級		授業者：山藤　真貴子
単元名	野菜作りの魅力を伝えよう		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	どうすればよりよい人間関係を築くことができるだろうか
単元を貫く問い	自分が体験したことをわかりやすく後輩に伝えるためにはどうすればよいか
個別の問い	・自分の体験したことをどう表現すればいいか。 ・体験した時に感じたことや思ったことをどんな言葉で伝えたらいいか。 ・相手に自分の気持ちを分かってもらうためにはどうすればいいか。

２　単元について

【単元観】	【生徒観】
本単元は、特別支援学校教育要領（幼稚部・小学部・中学部）（平成 30 年)の目標「生徒の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うこと」に基づいて設定した。特に「２　心理的な安定」「６　コミュニケーション」の生活上の困難を改善・克服することに適切であると考え、栽培活動に取り組んでいる。栽培活動を通じて自然や土に触れて作業をすることで心理的な安定を図ったり（２－（1）情緒の安定)、体験を通して考えたことを、他者に説明する活動を通じてコミュニケーション能力の向上を図ったりすること（６－（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること、(5）状況に応じたコミュニケーションに関すること）を目的としている。 本学級の生徒は一年次からトマトやキュウリなどの野菜作りを行い、いつ、どのような作業をおこなうのが良いのか、体験を通して理解し、行動できるようになった。今回、そうした 3 年間の野菜作りのまとめとして、これまで取り組んできたことをまとめ、自己理解、自己表現につなげていく。また、野菜作りで得られた達成感や表現力の向上を今後の進路選択や就業時の自信につなげることができる。	

【指導観】

① 自分の考えや気持ちを様々な言葉で表現できるようにする。（引き出しを増やす）

② 初めての場面や人に対しても臨機応変に対応できるよう、自己表現の機会を増やす。

③ 卒業後の進路選択の為に自己表現力を高める。

自立活動で育成したい「表現力」

自分の考えや気持ちを適切に相手に伝えることができるようになること。

3　単元の目標

① 野菜作りを通して心身を安定させてひとつのことに打ち込んだり、見通しを持って行動したりできるようにする。　２－（１）

② 実際に体験した野菜作りについての方法や自分が考えたり感じたりしたことについて、わかりやすく下級生（小学生）に伝えることができる。　６－（５）

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
自分の考えや気持ちを伝えるための様々な言葉・感情を知る。	自分の気持ちがどうすれば相手に分かりやすく伝えることができるか考えている。	自分の考えや気持ちを積極的に相手に伝えようとすることができる。

5　単元計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
１ ～ ３	・次の野菜作りの計画を立てる。 ・野菜づくりのまとめ方について計画を立てる。	○		○	知識・技能 主体的に取組む態度	行動観察
４ ～ １２	・野菜作り ・野菜作りの様子を動画や写真で記録する。 畑の作り方、道具の使い方 種まきの方法、苗の植え方 作物の管理　　畑の整備など	○		○	知識・技能 主体的に取組む態度	行動観察
１３ ～ ２０	・野菜作りのポイントをまとめる。 記録した動画、写真から必要なものを選ぶ。 説明する順番や内容を考える。		○	○	思考・判断・表現 主体的に取組む態度	行動観察 記述・発表

6　本時の授業計画

【本時の目標】

野菜作りのポイントをわかりやすく下級生(小学生)に伝えることができる。

【準備物・使用するソフト】

電子黒板、タブレット、プレゼンテーションソフト、写真、動画編集ソフト

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 5分	①　これまでの野菜作りを振りかえる。 本時のめあて　野菜作りのポイントをまとめ、分かりやすく伝えることができる。	
思考 ↕ 表現	②　自分や先生が撮影した動画や写真を見直して、野菜作りに必要な技術や知識を挙げる。 畑作り　　雑草の抜き方 苗の植え方　　肥料のあげ方・タイミング 支柱の立て方 ③　選んだ動画・写真について発表する。 ④　ゲストティーチャーに、発表内容について解説・修正してもらう。 ⑤　ゲストティーチャーからの修正を受けて、よりよい説明を加えてもう一回発表する。	支援・これまでの活動を思い出させる。写真、動画を撮影しておく。これまでの活動で大変なところだけでなく、野菜作りの楽しいところも発表できるよう促す。 主な表現活動 支援　様々な言葉を挙げて、より良い言葉・表現を考えさせる。
	予想される生徒の姿 これはクワの使い方の動画です。クワは、しっかり土を耕すのに使います。しっかり握って、できるだけ土を深く掘り返します。クワを使うと疲れるので大変です。でも、しっかり土を耕すことでいい野菜ができます。	
振り返り 3分	⑥　ゲストティーチャーから講評をいただく。 ⑦　学習の振り返り 今日の授業の感想を言う。 数値化→「その理由は？」	支援表現が難しい場合、自分の気持ちを数値化してみる。 かんたん⇔むずかしい 1　2　3　4

7　成果と課題

【成果】

・ゲストティーチャーからのアドバイスを受けて、「下級生に分かりやすく伝えよう」という意識をもって修正することができた。

・一人で緊張しながらも一生懸命、前半・後半で２回も発表していてがんばった。２回目の発表では、修正内容を加えて、さらに臨機応変に言葉を加え、落ち着いて発表することができていた。本人の自信につながった。

【課題】

・修正をする際、落ち着いて取り組んでいたが、やはり修正ポイントが３か所あり、時間がかかった。修正箇所を１つにしぼって、余裕を持って取り組めるようにしたらよかった。

・国語と関連させて「もっとわかりやすい語句がないか」とう調べるなどさせてもよかった。

8　生徒の作品等（記述例）

修正後のスライド（ノート部分）